



Book Reviews (自著を語る)

『やさしい青年心理学』

総合科学部・人間社会学科・教授(障害臨床心理学研究室)

森陽子 共著

衝動的なニユースが多い今日この頃です。数あるニユースの中で私は、作家柳美里が女性から無断でモデルとされたと訴えられ、小説『石に泳ぐ魚』の出版差し止め判決を受けた新聞記事に、とても考えさせられました。人権尊重の精神からこの判決が支持される一方、当の作家は「表現の自由の侵害である、文学への法的規制はおかしい」と反論しています。

ちよつと状況は違いますが、心理臨床の実践の場でカウンセリングに当たる私たちにとつても、同様の問題があります。来談者(クライアント)の事例について研究を行い、論文などに自験例を提出して論じる機会があるからです。公表にはなるべくクライアントの許可を得る事になっていきますが、実際は難しいこともあります。もちろん、いかなる場合もプライバシーが守られるよう配慮するのは当然のことです。

ただ、研究材料にされたこと自体「嫌だ」と思うクライアントがおられるでしょう。かといって、研究もせず、その成果を世に問うこともなければ、心理臨床の進歩もありえません。ところで今年の春、『やさしい

青年心理学』という易しい書を、3人で共同執筆しました。この書では、青年期の事例をさまざまに取り上げて解説する一方、柳美里の自伝的小説『水辺のゆりかご』にも触れています。

青年の姿は、時代とともに変貌していきます。私たちは過去をふまえつつ、21世紀初めの中学生や高校生、大学生、社会人に至るまでの、青年像を模索してみました。

執筆者は、「青年期の時間的展望研究」などで活躍中の発達心理学者都筑学・白井利明と臨床心理学の私です。お互いに青年期からの古い友人でもあります。

ただし、それぞれ中(高?)年となつた今、メールで肩こり解消法などの健康情報を交換する仲間もあります。

この『やさしい青年心理学』について、ご意見などくださればうれしいです。



2002年4月10日出版
(有斐閣アルマ)
定価1,800円+税

『新しい時代の小児歯科学』

歯学部・歯学科・教授(小児歯科学講座)

西野瑞穂 共同編集

近年、歯科医学・歯科医療はかつて経験しなかつたような速さで著しい変貌を遂げ、現在も変貌しつつあります。それは歯科医学・歯科医療に関する研究の高度先進化、口腔領域を含めた全身の疾病構造の変化、インフォームド・コンセントの徹底、高質の医療の希求、治療から予防、さらに健康増進への志向など、歯科医療に対する国民のニーズの変化などが急激に生じてきたからです。

言うまでもなく小児歯科は、成人に至るまでの成長発達期、すなわち胎生期から20歳ころまでの小児の口腔を健全に育成するための小児歯科であり、小児歯科学という学問・科学に裏付けられたものでなければなりません。近年急激な少子社会の到来により、その社会の将来を見据えて小児に対する保健・医療・福祉をとくに手厚くする必要が叫ばれ、小児歯科医療の重要性が従来にも増して認識されるようになってきました。

また、歯学教育のあり方が現在大きな転換期を迎えています。す

なわち、生命科学の飛躍的發展による求められる知識量の爆発的な増大、個人と地域・国際社会の健康の増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な活動ができる人材の必要性、そしてなによりも国民から信託された幅広い識見と豊かな人間性を有し、患者様中心の医療を実践できる優れた歯科医師の養成、歯学教育はこれらに確実に対応できなければなりません。

本書はこのような新しい時代に対応した小児歯科学について、理解が深められるように編集、企画しました。教科書ですので大衆書にはなり得ませんが、歯学生や若き歯科医師が歯科医師としての使命をこころに刻み込み、新時代の小児歯科医療を実践するのに役立つことを祈念しています。



2003年1月発行
(医歯薬出版)
定価12,000円+税